

激変する社会において、 新しい家族・家庭のあり方 を模索していききたい

京都華頂大学（2011年4月開設）・華頂短期大学 学長 中野正明
まとめ／堀水潤一 撮影／高橋貴絵



【学長プロフィール】1954年生まれ。大正大学大学院博士課程単位取得。文学博士。学校法人佛教教育学園副理事長、華頂短期大学附属幼稚園長、日本私立短期大学協会副会長・教務委員長、総本山知恩院文化財保存委員長。

【大学プロフィール】1911年開校の華頂女学院が前身。1953年華頂短期大学創設。2011年4月、短期大学の一部を改編し、京都華頂大学（現代家政学部・現代家政学科）を開設。同年、短期大学に人間健康福祉学科を新設。

情報化や流通革命により、世界中の物や情報が即座に届く時代になりました。私も、両親の介護のため帰省する週末は、インターネットで注文した食材で料理をしています。このように、ホームヘルパーの助けも含め、技術や制度の恩恵を受けながら、遠方に住む両親の介護ができています。これは20年前には考えられないことでした。一方で偏った食生活など子育ての環境はよいとはいえませんが、このように家族・家庭をとりまく環境は激変しています。超少子高齢化社会において、従来の家族・家庭観や、地域・社会制度のままでは立ち行かなくなるでしょう。新たな課題に対して、技術で凌ぐだけではなく、価値観から見直すべき時が来ていると思うのです。

創立100周年の節目の年に、4年制大学（現代家政学部）を新設するポイントはそのにあります。家政学という歴史ある学問をとらえなおし、可能性を広げたい。家政学は、衣食住を中心とした実践的総合科学であるといわれます。新学部では、社会科学的なアプローチも加えることで、人間の生涯における本質的な課題に取り組みたい。乳幼児期・児童期、成年期、高齢者期というライフステージを縦軸に、人間、家族、家庭、地域、社会という領域を横軸に、新しい時代における家族・家庭のあり方を考えていきたいのです。

具体的には各ライフステージに対応した3つのコースを設けます。「児童学コース」では保育士や幼稚園・小学校教諭を、「人間福祉学コース」では社会福祉士の資格取得を目指します。また、「ライフデザインコース」では、職業人・生活者の両方の視点から人生や社会を考えられる人材の育成を行います。育児、住居、介護などは、誰にとっても大切な課題。どうしたら豊かで充実した生活を送れるのかを真摯に探究してほしい。いずれも課題設定力、探求力、解決力の育成に重点を置き、実習や就職では短期大学で培ってきた実績が活かされるでしょう。

浄土宗の宗祖法然上人のみ教えに基づき本学の教育方針は「生命の尊さを深く理解し、素直に感謝のできる社会人を育成する」ことです。大切にしたいのは自尊、愛他、共生の精神。自らの存在の尊さに気づいてこそ、他者への思いやりをもつことができ、その積み重ねによって、共に社会を生きていくことの大切さを知るといえます。女性であることに自信と誇りをもつて生きていける人を育てていきたいと思っています。